

contents

- ② 会長あいさつ ポストコロナの活動
- ③ 50周年を迎えた葛飾の川をきれいにする会
- ④ 「内水面漁協活動の活性化」について
- ⑤ 「涼を求めて山を登る」～白糸の滝～
- ⑥ 「森は海の恋人、キューピットは水」
- ⑧ 日本の水産資源を守るために
- ⑫ 内水面養殖における『スペシャル・トラウト』と海面養殖も含めた『ご当地サーモン』
- ⑯ いつまでも輝く水田を
そして持続可能な水田の米を中心の日本の食を
- ⑰ 私と「水」
- ⑳ 改めて知る水の大切さ
- ㉑ 「水」の恵みが日本にもたらしたもの
- ㉒ 総会・理事会開催報告

青 清 湖 流

S
E
I
K
O

S
E
I
R
Y
U

一般社団法人 日本の水を守る会

2023年
152号

50
周年記念号
50
Years
ANNIVERSARY

岐阜県 宇津江四十八滝

ポストコロナの活動

一般社団法人 日本の水を守る会

会長 米長 晴信



一般社団法人日本の水を守る会は、お陰様で本年設立50周年を迎えました。会員の皆様をはじめ、多くの方々のご支援、ご協力の賜物、と心より感謝申し上げます。

設立当時の日本は、高度経済成長期にあり、目覚ましい経済発展を遂げていた一方で、急激な水質悪化が懸念されていました。こうした状況において、水環境をきれいに保つ為には、一人一人の協力が欠かせないことを広く周知し、水環境への関心を高めて行く必要があると、政界や教育界などから有志が集まり、「社団法人 全国川とみずうみをきれいにする会」として本会は設立されました。河川や湖沼で漁を行う漁業者、工場や発電所で多量の工業用水を使用する企業、釣りの愛好家の団体など、様々な立場の会員が集まりました。昭和52年には「社団法人日本の水をきれいにする会」に名称変更して、対象範囲を河川、湖沼から港湾、沿岸海域等にまで拡大。更に平成25年には「一般社団法人日本の水を守る会」に名称変更し、普及啓発活動을 続けて参りました。この機関誌「清流青湖」の名称は、「銀輪躍る清流をとり戻し、青く澄んだ湖を復元しよう」と言う会の合言葉から名付けられ、以来152号を数えています。

時代は令和へと移り、およそ3年間に渡って日本社会を蝕んだコロナ。ウィルス自体が収束した訳ではありませんが、5類になった事で社会生活は徐々に元通りに回復しつつあります。しかし、世界を取り巻く環境は厳しく、ロシアのウクライナ侵攻による穀物やエネルギー価格の高騰、それに伴うグローバルな物価高騰。内水面漁業や水の保全といった活動にも少なからず影響しているのではないのでしょうか。

そのような厳しい環境の中、本年は2030年に向けたSDGsの取り組みの「中間年」(折り返し)を迎えます。9月には国連でSDGサミットも予定されており、改めて世界的に注目されるテーマです。皆様の活動は、少なからず環境分野のSDGsに直結する重要な役割を果たしておられます。持続可能な社会を維持する。誰も取り残されない世界を構築するという大きな目標の中で、水を守るという事は森林の保全、感染症の蔓延防止、など大きな役割を果たしています。コロナ禍が一段落した今こそ、崇高な目標に向けた取り組みの中で大きな役割を担っているという事を再認識してさらなる貢献を果たしていきたいと願っております。

50周年を迎えた 葛飾の川をきれいにする会

一般社団法人 日本の水を守る会

副会長 齊藤 徳好



日本の水を守る会の設立50周年おめでとうございます。

私は、地元葛飾でも、葛飾の川をきれいにする会という団体で活動しており、お陰様で設立50周年を迎えることができました。改めて、葛飾の川をきれいにする会についてご紹介致します。

1 葛飾の川をきれいにする会について

葛飾区には7本の川（江戸川・荒川・綾瀬川・中川・新中川・大場川・小合溜）が流れています。この内、中川をきれにする会が昭和48年に設立されました。（平成2年に現在の名称に改名）設立当時、区内には下水道施設ゼロ。綾瀬川は、日本一汚い川となっていました。こうした状況下、川の流域の町会長を主体に、中川水系に排水している企業団体の協力を得て結成されました。

2 葛飾と環境問題 連携の歴史を持つ葛飾区

葛飾区では、昭和43年に日本で始めてのメッキ工場アパートが建設されました。メッキ工場の事業者と葛飾区が協力し、地元選出の衆議院議員鯨岡兵輔先生（後に環境庁長官）と、環境庁長官であった原文兵衛先生の2人の政治家のご尽力で、区内の複数のメッキ企業を一つの建物にまとめ、排水処理や除塵施設を共同で利用するメッキ工場アパートは、公害防止の観点から、当時多くの注目を集めました。地域の住民と企業が協力して団体を設立したのも、こうした連携の歴史が有ればこそ、と言えるでしょう。

3 現在の活動

- (1) 定期水質調査：葛飾区に流れる7本の川を毎月第3日曜日に調査
- (2) 小学校、学童保育での出前授業
- (3) 他団体との協働、協力活動
- (4) 新潟県五泉市との交流：葛飾区環境課との共催事業。矢切の渡し「柴又チューリップいっぱい」柴又河川敷に23,000球区内全域で17,000球のチューリップを咲かせています。
- (5) 小学校22校で鮭、鱒のふ化、飼育、放流学習

4 会の活動指針

自然環境の恵みに感謝し、行政の指導のもと地域団体、学校、幼稚園、保育園、ボランティア団体と協働協力し、人と人の絆を強めお互いに来る事を提供しながら信頼し、支え合って仲良く楽しく、見返りを求めず、環境啓発・普及につながる活動をしています。

今日までの50年の活動が出来ましたのは、長い年月ご支援、ご協力くださいました大勢の方々の温かい心で会活動に対しご理解、ご協力下さいました賜物で深く感謝申し上げます。今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

「内水面漁協活動の活性化」について

公益社団法人日本水産資源保護協会
専務理事 遠藤 進



日本の水を守る会設立50周年おめでとうございます。
当協会では令和元年度から全国内水面漁業協同組合連合会とJVを組んで、「やるぞ内水面漁業活性化事業」を実施しております。本誌第150号で2年目の報告をご紹介したところですが、今般、事例集を公開しましたので、その内容について概要を述べさせていただきます。なお、事業のあらましについては、本誌第147号で水産庁の当時の担当課長補佐が解説されていますので、参照ください。



やるぞ内水面漁業活性化事業事例集

事例集では、新しい漁場管理の手法として人気の高い電子遊漁券の導入、および、ゾーニング管理や釣り人等と連携した漁場管理について10件の事例を取りまとめました。

個々の事例については事例集をご覧ください。また、事業の委員をお願いしている東京海洋大学の工藤先生が、「活性化」ということで本事業の効果を次のようにまとめておられます。

- やるぞ内水面漁業活性化事業の取り組みによって、内水面漁協の活動が活性化し、漁場管理などの機能が高まっている
- 漁協のメンバー同士が日ごろ感じていることを意見交換することで、人間関係が活性化している
- 電子遊漁券の導入、釣り人との連携、ゾーニング管理等をみんなで取り組み、その効果・課題について共通認識が生まれると一体感が高まり、
- 更に活動が活性化する
- データの蓄積、釣り人との関係構築を活かして効果的・効率的な漁場管理の実現
- ICTのさらなる活用による地域社会・経済の活性化へ

事例集を基に、取り組みの他地域への横展開を願うものです。そして内水面漁協活動の活性化が、「日本の水を守っていききたい」という国民的気運につながっていくことを願います。



ワカサギ釣りの様子(赤城大沼漁業協同組合)

「涼を求めて山を登る」～白糸の滝～

福岡教育大学教職大学院
日下 典子



あなたが涼を求めて「旅に出たい!」と思うのはどんなときですか?誰かが旅の写真をSNSにアップしているとき?テレビで旅番組を見たとき?

私は、空を見上げて、なんとなく「夏の空に変わったな。」と思ったときに、涼を求めて旅に出たくなります。

今回は私が今までに訪れた「涼スポット」のなかから、お気に入りの名所をご紹介します。

「白糸の滝～ふれあいの里～」は、福岡県糸島市屈指の観光名所で、夏には涼を求めて多くの人を訪れます。

落差は24m。絹糸が流れ落ちるような滝からは、繊細さと雄大さを感じることができる自然満喫スポットです。

白糸の滝に隣接する憩いの場、食事処「四季の茶屋」では、ヤマメ釣りや、地元食材を使った定食、夏になると名物「そうめん流し」を楽しむことができます。6月には約5千株10万本のアジサイが咲き乱れ、多くの家族連れやツーリング中のライダーの夏の思い出の場です。

ところで、「水」は栄養素ではありませんが、身体を構成する重要な成分で成人は約65%が水です。

私たちが「涼を求めて」というとき、生命維持に最も必要な水を、無意識に求めて旅に出るのかも知れません。

白糸の滝の近くに行くと、ひんやりとした細かい水しぶきを浴びることができます。深呼吸をすると、スーッと冷たい空気が体内に入って、気持ちがすっきりとします。

先日、白糸の滝を訪れた際、海外からの旅行客が

水しぶきを浴びながら、楽しそうに家族写真を撮っていました。長く続いたコロナ禍の規制も和らぎ、旅行を楽しむ人々が増えてきます。

あなたは、今、心も身体も健康ですか?「涼を求めて」美しい水を探しに出かけませんか?



あじさい



白糸の滝

福岡県指定名勝

白糸の滝～ふれあいの里～

福岡県糸島市白糸460-6

お問合せ 092-323-2114

白糸の滝は年中営業しています。

4月～11月は無休。12月～3月は水曜日が定休。

「森は海の恋人、キューピットは水」

一般社団法人日本定置漁業協会常任理事
日吉 直人

城ヶ崎海岸富戸定置網株式会社代表取締役
一般社団法人静岡県定置漁業協会代表理事会長



水の星と言われる地球は、その7割が海、残りの3割が陸と言われています。

また、「森は海の恋人」と言われる様に、近年森や海の環境を保全し自然と人が共生することによって、私達人類の持続的な発展をめざす施策が進められ様としています。全国各地の漁業者は、豊かな森が豊かな海を育むことを意味する「森は海の恋人」というキャッチフレーズで、豊かな海づくりのための森林整備や植林活動を積極的に展開しています。当初は漁業者が細々と行っていた森林整備活動は、その後行政や多くの市民に理解され社会運動にもなって来ています。

私の所属する、いとう漁業協同組合では、15年ほど前に若手漁業者で組織する漁協青年部を中心として、静岡県や地域のボランティア団体の協力のもと広葉樹の植林を行い、現在ではそれらの木々も成長し森の一員となって来ています。



15年前に植林した森のいま
伊東市松川湖畔

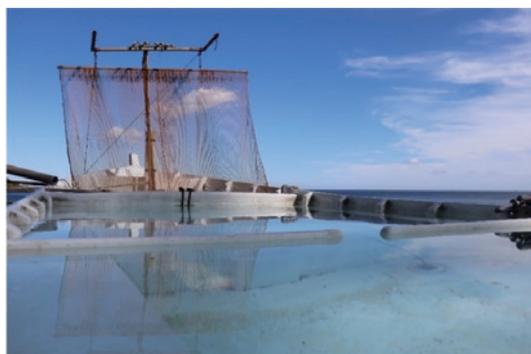
更に、数年前私の住む伊豆高原地域において、外国資本による大規模なメガソーラ施設の建設計画が

持ち上がりました。広大な森林を伐採し、建設残土も垂れ流される可能性のあるこの計画に、森・海や水を守り、漁業という地域の産業を守るため、私達漁業者はいち早く強力な反対運動を展開し、現在もこの計画が推進されない様に常に監視を続けています。

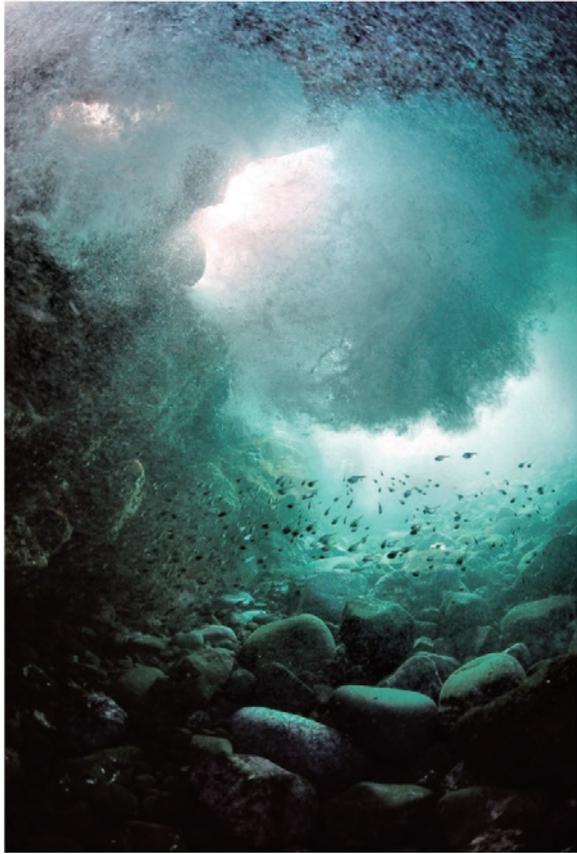
私の生活の基盤となっている、伊東市富戸の地先に広がる海は、海岸線の照葉樹林地帯や天城山系の豊かな土壌、清浄な水により「里海」となって相模湾に連なります。

さらに、水深の深い相模湾では、親潮系と黒潮系の分派も還流し、これら三者の共演により、栄養分に満ちた海域となっています。

伊豆ジオパークの代表格である、城ヶ崎海岸地域は、4千年ほど前に大室山等の噴火により、流れ出した溶岩により形成され、風光明媚であると同時に、岩に浸透した雨水が浄化され、清らかな湧水として海に注ぎ、我が国でもトップクラスの透明度を誇る海となり、スキューバダイビングのメッカとしても有名です。



清らかな水ありてこそ綺麗な温泉あり
ダイバー用の温泉(温泉丸)伊東市富戸漁港



溶岩が海中に造った絶景
ダイバーに人気の富戸ホール

現在、富戸定置網では、この豊かな海に育まれた魚たちが、年間100種類以上水揚げされ、美味しさを競い合っています。

また、この地伊豆・伊東では、今から数千年前の弥生時代の遺跡から、魚の骨などが発見されており、魚を糧として暮らしていたことがわかっています。また、全国的にみても、弥生時代を更に遡る縄文時代、既に船や網などの高度な漁具を使い漁業を行っていたことが明になっています。そして、「三里四方は医者いらず」のことわざが残る通り、先人たちは「地産地消」を実践してきました。

私達地域の漁業者は、幾多の先人達の培ってきた、「地産地消」を始めとする魚にまつわる様々な取り組みや、清らかな海を後世に残すため、全身全霊で諸活動を推進しています。



透明度抜群の海
伊東市富戸漁港



年間100種類以上の魚を水揚げ
城ヶ崎海岸富戸定置網の水揚げ作業



森は海の恋人、キュービットは水
伊東市松川上流

日本の水産資源を守るために

海洋総合開発株式会社
取締役 営業統括部長 寺田 泰久



1. 自然と水に恵まれた日本

日本は海に囲まれた島国であり、国土の67%以上を森林に覆われた山地を有する自然の豊かな国です。山から流れ出る水には豊富な養分があり、川となって海に注ぎます。日本は、その周辺海域で多種多様な魚介類が育ち、水産資源に恵まれていることで漁業立国として発展し、世界有数の食文化を持つ国になっています。

しかし一方で、より便利で快適な生活を求めて、恵みの元となる森林を伐採することで栄養豊富な河川が減少したり、近年の地球温暖化に加え、河川や海の水温も1~2℃上昇していることにより豊富な海の資源である昆布や海藻が減少し、磯焼けが発生しています。

海洋生物の環境が大きく変化し、あわび等の高級魚介類の生育場所も限定されるので、水産資源への影響が懸念されています。

そのため、豊かな海を取り戻すため、恵みの水の源である森林の再生プロジェクトや地球温暖化対策として省エネルギーへの取り組みが各地で行われています。

2. 日本の水産資源への脅威

このように私たちが自然と水産資源を守ろうとしている風潮に反して、近年、悪質な密漁が増えてきており、大変問題になっています。

また、近年の傾向は、漁業者による違反操業が

減少している一方で、漁業者以外の密漁が増えてきているようです。

組織的な密漁グループや、資金確保を目論む暴力団等が広域的に乱獲している他、ルールを十分に認識していない一般の方が、個人的に消費するための密漁も各地で行われています。

これからも、この豊かな水産資源を持続的に利用するためには、適切な資源管理を行うことが極めて重要ですが、密漁は後を絶ちません。

3. 海洋セキュリティ分野を中心とした弊社の事業

弊社は平成6年の創立以来、まもなく30周年を迎えようとしています。

この間、日本の水産資源を守るため、海洋セキュリティ分野を中心に独自の監視カメラシステムを開発してまいりました。

そして、これまでの開発により蓄積された多くのノウハウから、悪質な密漁を昼夜24時間監視できる監視カメラシステムを、水産庁をはじめ、各地方自治体の水産部門、全国の漁業協同組合等に納入、ご活用いただけるようになりました。

弊社はこれら多くの実績で培った経験と技術を活かすため、監視カメラシステムの事業に特化し、専門システムメーカーとしてお客様のご要望にマッチするよう、ご提案から製造、設置、アフターサービスまで一貫してご提供しています。



密漁対策監視カメラの例
(中距離監視用)

4. 密漁対策監視カメラシステムの概要と導入例

さて、密漁は主に夜間に行われることが多いですが、星明りも無い環境では、高感度カラーカメラを使用しても、撮影するために十分な光量を得られず、また、近赤外線投光タイプのカメラも、漁場まで十分に光が届かないために、夜間の密漁を的確に捉えることができません。

これらの監視カメラは、せっかく設置しても、夜間はなかなか密漁者を捉えることができません。

巧みな密漁者は設置しているカメラの死角を掻い潜り、密漁を繰り返しています。

そこで弊社は、密漁対策監視カメラシステムに熱検知型の赤外線カメラ(サーマルカメラ)を採用しました。専用の望遠レンズを組み合わせることにより、真っ暗な闇夜でも遠方の漁場を撮影することができます。

また昼間でも、サーマルカメラの特性により、

カラーカメラでは見えにくい逆光や霧でも、より撮影対象が見える場合があります。

更に、レーダーと連動し、広域の監視やレーダーで捉えた対象船舶に監視カメラを旋回させることもできます。

夜間の遠方監視ができるため、監視カメラの設置場所を判りにくくすることができ、密漁者にとっては脅威になります。

密漁対策監視カメラシステム導入により、実際に密漁が減った地域もあります。

ある漁業協同組合では、あわび、うに等の沿岸域で獲れる高価格水産物の密漁が多く、被害額も大きいことを悩んでいました。

密漁者は、小型船に複数台の船外機を搭載し、高速で漁場に接近、密漁を行って逃げるため、漁場に近づく前の、出来るだけ遠くから監視したいとのご要望がありました。

弊社は、この状況に対応すべく、夜間でも10km

以上遠くの船舶を検知できる密漁対策監視カメラシステムをご提供しました。

導入後、密漁者の早期発見と広域での動向が確認できるため、迅速に警察や海上保安庁、県の漁業取締部門に通報や連携ができ、密漁は減ってきたそうです。このシステムを高くご評価いただき、現在でも密漁防止にご活用していただいております。

5. 密漁対策監視カメラシステムの応用

密漁対策監視カメラシステムを漁業取締船や監視船に搭載しているモデルもあります。

海上から密漁者や密漁現場を押さえるため、船舶に搭載して遠方から監視するシステムです。

沖合から機動的に監視できるシステムですので、密漁現場だけでなく、密漁者の接近や、逃走を追うことができ、より密漁者の検挙に繋がる監視活動が行うことができます。

船舶搭載監視カメラシステムの中には、船の動揺によるカメラのブレを抑えるスタビライザー付きのシステムもあり、より遠方の海上監視を行う船舶に採用されています。

中には、外洋まで取締を行う船舶に搭載されているものもあり、国内のみならず外国からの密漁も広範囲に監視することにより、日本の海を守っています。

6. 未来への取り組み

いま世界は、人口増加と経済発展に伴い水産物消費量が増加していますが、漁船漁業による漁獲量は過去30年間ほぼ横ばいです。一方、養殖生産は急速に伸びています。

天然資源の損失を抑え、安定的な生産は漁業者の収入も安定させることから、日本でも各地で盛んになりつつあり、鯛やサクラマス等の高級魚、大型魚のマグロの養殖が増えています。



カラーカメラと熱検知型の赤外線カメラ

これらを狙う新たな密漁(窃盗)も横行するようになり、弊社も生簀専用のカメラを開発、販売する等、あらゆる手口に対応できる監視カメラを日々研究しています。

弊社は、自社の製品と技術により、日本の海、水産資源を守る活動の一端を担えることの嬉しさと共に、責任の重さも感じています。

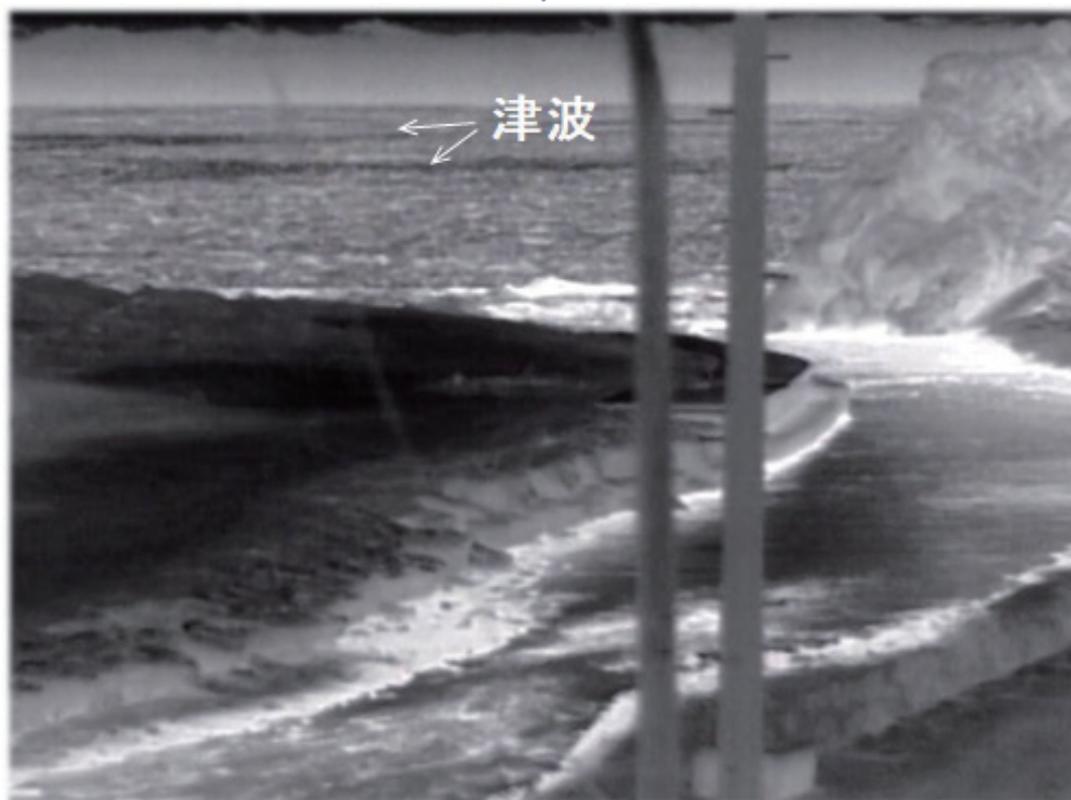
今後も日本の水産資源を守り、次世代へしっかり受け継いでいくためには、巧妙化する密漁の手口や、監視員の人手不足に対応できるよう技術を磨き続けるとともに、恵みの水の源である森林から、

みんなで環境を守る取り組みが必要と考えています。

日本では、少子高齢化による人口減少により、森林や山林の管理保全に従事する者が減ってきています。

木材生産のため伐採した後の植林がされなかったり、植林されても手入れできず放置林となってしまう問題があります。

豊かな水産資源を守るため、業種を超えて、みんなで水の最初の一滴から環境保護を考える気運を高めていけば、未来はもっと明るく輝くのではないのでしょうか。



密漁対策監視カメラが捉えた津波

内水面養殖における『スペシャル・トラウト』と海面養殖も含めた『ご当地サーモン』

全国養鱒振興協会
会長理事 小堀 彰彦



(一社)日本の水を守る会が本年設立50周年を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。今後も我々のような水の恩恵にあずかる業界にも一層のご指導をいただきますようお願い申し上げます。そして、今回50周年記念号に寄稿させていただくことを大変光栄に存じます。

1.海なし県で淡水魚嫌いの地方でも人気の「ご当地サーモン」

我が国へのニジマスの移植(実は世界初)からもうすぐ150年となります。養鱒は当初より産官学が協働で発展させてきた古い歴史があります。戦後は冷凍品を逆輸出するなど外貨獲得にも貢献しました。

全国養鱒振興協会は内水面マス類養殖業者の生産者団体ですが、これとは別に養鱒に携わる水産試験場の研究者を中心とした組織である全国養鱒技術協議会があります。例年、全国養鱒技術協議会は7月、全国養鱒振興協会は11月にそれぞれ全国大会を開催してきましたが、近年はコロナ禍のため開催できない年もありました。本年も晩秋には流行波があることも危惧され、また偶然にも各団体の大会の予定開催地が重なったこともあり、それぞれ半世紀の長い歴史のある大会ですが、本年度は初めて7月に山梨県甲府市で合同開催しました。コロナ禍で集会に参加できなかった反動のためか、会場に入りきれないほどの多数の参加者があり、久々の盛会になりました。

筆者は前日に東京の大学で講義を依頼されており、終了後にその足で甲府に入りました。翌日の大会後には交流会も予定されており、山梨県の新たなブランド鱒である『富士の介』(ニジマス×マスノスケ king salmon)が試食できることがわかっていたので、夕食には山梨県のブランド牛でも食べようかと、ガイドブックを持ってホテル近くのフレンチ・レストランに入りました。



富士の介

地元住民ではないことはわかっていたはずですが、フロアスタッフから渡されたメニューを開く間もなく、「本日のサーモンは『甲斐サーモン』ではありません。現在入手が難しく、本日はノルウェー産になります。」と言われました。

私は養鱒業界関係者であり、甲府に来た理由を説明し、現在は大変なサーモン人気で、『甲斐サーモン』に限らず全国的にブランド鱒が供給不足になっていることを伝え、これをお詫びし、明日全国の生産者にも増産を呼びかけ、今後とも「ご当地サーモン」をご利用いただくようお願いしました。

現在、養殖サーモンは世界中で需要が伸長しており、ロシアのウクライナ侵攻以来、輸送コストの上昇や円安の影響もあって、輸入鮭鱒の価格は約2倍にまで跳ね上がっています。その結果、我々が注力して生産している国産ブランド鱒との価格差が縮小したこと、輸入鮭鱒の供給量もタイトになっていることから需要が急増し、コロナ禍での減産や簡単には増産できないこともあり、全国各地で国産ブランド鱒の供給不足が生じています。

しかし私が驚いたことは、実は甲府市は昔からマグロの消費量が常に全国トップクラスで、海なし県でも淡水魚はあまり食べないことを知っていたからです。マグロは車のない昔から静岡県から富士山を廻る供給ルートがあり、甲府では来客のおもてなしはマグロと聞いていました。その淡水魚を食べない甲府市で、ご当地サーモンである『甲斐サーモンレッド』が地元住民にも人気になっているのです。

山梨県には海がありませんが、豊富な天然水を活かして、淡水魚の養殖が盛んに行われています。マス類の生産量は全国3位です。一方で淡水魚の食材としての地場消費は少なく、地元での生産と消費のギャップの解消のために、味や品質を改良して生れたのが『甲斐サーモンレッド』でした。そして、近年ではニジマスとキングサーモン(マスノスケ)の交配種である『富士の介』も登場しました。こうした地元産が名産品として地元で消費が拡大することは、養鱒業界が目指したひとつの成果でもあります。

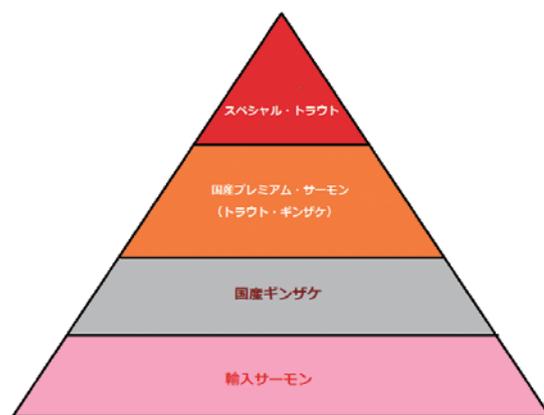
2.『スペシャルトラウト』と『ご当地サーモン』

『ご当地サーモン』という言葉がマスメディアにもよく登場するようになりました。差別化商品として相当な特長を持たせたものから、海面利用や陸上での

閉鎖循環式養殖等、養殖方式の違いをアピールするもの、はたまた単に生産地の名前を冠したもので実際に様々なサーモンが誕生しています。

こうした国内『ご当地サーモン』のルーツは、実は昭和の終わりまで遡ります。30数年前に筆者らが仕掛けた、輸入養殖サケマスとは明らかな味と食感の違いがわかる国産養殖大型マスが、現在このように全国的な展開を見せ、ブームにもなったことは実に感慨深いものがあります。

希少性や地域特産を売り物にしたこうした国産養殖大型マスは、後に養鱒業界では『スペシャルトラウト』と呼ぶようになり、全国各地で開発が進みました。バイテクの利用や餌、添加物に工夫をこらし、味や品質に特徴付けしたものを「スペシャルトラウト」と称し、いわゆる「ご当地サーモン」とは区別しています。



国産プレミアム・サーモンの位置付け

前段でご紹介した『甲斐サーモンレッド』や『富士の介』も「スペシャルトラウト」です。

マス類のバイテク利用は養鱒魚種の中でも早くから取り組まれました。全雌化や倍数化、異質倍数体(交配種)などの作出が主でしたが、どれも大型魚



絹姫サーモン(イワナ型無斑)



絹姫サーモン(アマゴ型無斑)

を生産するための技術でした。試験研究機関が集う全国養鱒技術協議会の中で、若手研究者が中心となって「21世紀の養鱒を考える会」という部会が組織され、その中には育種バイテクを中心に様々な技術の検討や情報交換が昭和の終わり頃から行なわれていました。内水面でのマス類養殖生産量は1981～83年に2万トンを超えてピークとなりましたが、それは同時に販売の問題も露呈させました。業界が価格低迷と販売対策に苦慮する中で、研究側はバイテクを利用した次世紀の新たな魚種の開発に向かっていました。

こうした流れから1992年に登場したのが愛知県水産試験場の開発した全雌異質三倍体である『絹姫サーモン』（ニジマス×アマゴorイワナ）でした。愛知県知事に命名していただき、商標権も登録しました。その後しばらくしてから、育種バイテクの研究素地があった各県水産試験場の協力の下に、続々と特徴のあるスペシャルトラウトが登場し、同じような手法をとりながら、地産地消運動の活発化の流れに乗って、地域特産品としての地位を確立していきました。

『絹姫サーモン』の開発は86年頃からでしたが、当時すでにノルウェーから海面養殖ニジマスの冷凍

品が輸入されており、展示会などで情報をとる度に、物量や価格、広告宣伝などではとても対抗できるものではない、まるで黒船がやってきたような感覚でした。

ただし、それを食す度に「ニジマスは本来もっと美味しいのだが」と思っていました。そうであれば、ニジマスのイメージを脱却するほどの味の差別化と生食に特化した魚をつくり、高品質、高鮮度、高価格で地域特産品として少量の販売を目指すというのが開発コンセプトでした。時はバブルで、高価な希少品でも人は食べに来るとい時代も幸いでした。その後、鮭鱒の生食を普及させたのは輸入鮭鱒と回転寿司の普及でした。我々業界は今でもその恩恵にあずかっています。

鮭鱒の生食文化を浸透させた輸入鮭鱒の味がスタンダードになると、もっと日本人の口に合う鱒はある、刺身としてもっと上品な味わいと脂の乗りを求めた差別化があってよい。輸入鮭鱒とは価格でも物量でも宣伝でも国産ニジマスは勝負にならない。広範囲に売る力もない。しかし味や鮮度も含めた品質では勝負できる。輸入物とは決定的な違いをつくり、利益の出る差別化した魚をマーケットの隙間に突っ込んでいく。こうした差別化商品の需要は必ずあるし、



絹姫サーモン(アマゴ型有斑)



絹姫サーモン(アマゴ型無斑活魚)

マーケットの隙間は全国にある。物流の面でハンデのある過疎地でも、むしろこの絶品の魚を食べたい。当地に来ればよい。大きなマーケットは必要ない。その地域でしか味わえないスペシャルをコンセプトにして登場したのが『絹姫サーモン』でした。

3.『スペシャル・トラウト』と『ご当地サーモン』の位置付け

現在のサーモン需要を創ったのは輸入鮭鱒です。物量と価格では国産は当面太刀打ちできず、これが幅広い需要をつくっています。ピラミッド式に考えれば底辺需要を支えるものです。その上に、価格では輸入サーモンとも勝負できる、そして鮮度面の有利さを生かして上の価格帯も狙える「ご当地サーモン」としての国産ギンザケがある。これはすでにある程度の生産規模もあり、全国的な流通も可能です。

そして、今後増産が期待される国産海面養殖ニジマスはその上に位置付けたい。ニジマスはギンザケほどの養殖特性はなく、生産コストは高くなる。内水面の種苗供給能力から、当面はギンザケほどの生産量は望めない。しかし、身質は良く刺身に適している。生食用の高価格帯を狙える。これは「ご当地サー

モン』として販売する一方、オールジャパンで取り組んである程度品質の揃ったものを量的に売り込む必要がある。寿司のサーモンは殆どが輸入であることを消費者は知っているから、必ず国産、高鮮度を求める客層はあると考えます。

「スペシャル・トラウト」はそもそも希少性が売り物で、量的な拡大は難しい。「ご当地サーモン」とも異なる特長にさらに磨きをかけて、市場規模は小さいが高付加価値、高価格で販売できる、ピラミッドの頂点に位置付けるようにしていかなければならないでしょう。

4.日本の水”に合う魚の開発を

空前のサーモン・ブームを受けて、国内の養鱒は大企業や外資系の進出も目立っています。業界でも成長に優れ、高度に育種された輸入卵を導入する業者も増えています。しかし、長所ばかりでなく、疾病や高水温に弱いなどの短所もあります。今後の主流となる海面養殖サーモンは、輸入と同じものをつくるのではなく、オールジャパンで取り組んで、“日本の水”に合う魚を是非とも開発するべきだと考えています。

いつまでも輝く水田を

そして持続可能な水田の米を中心の日本の食を

「なんてたって!伝統食の会—継いでいきたい日本の食」

世話人代表 栗原 澄子



6月の水田は輝いていた

6月に入って、長野県を車で走る機会がありました。目に入ってきた風景は輝く水田でした。四角に囲われた1面1面の水田は鏡のように、青空を映してそれはきれいなものでした。日本の農村の美しさに感動しながら車を走らせたのです。水田の中に整然と並んだ苗はまだ細く、田んぼの水面ばかりがキラキラと光って見えました。瑞穂の国日本は水の豊かな日本を映し出す情景なのだとして強く印象に残りました。そして、実りの秋には田んぼは黄金色に変わり、稲穂が重く垂れさがる景色を想像しながら日本の食の豊かさが孫の代まで続くことを願いました。



佐久 八千穂町

日本の食文化の中心は米のはずが

私たちの会「なんてたって!伝統食の会—継いでいきたい日本の食」の活動の一つは海外からも評価され、無形文化遺産になった日本の食の良さを継いでいくことです。うっかりすると文化遺産に登録されな

ければ消えてしまう恐れがある食の文化なのかもしれないということでしょうか。

戦後の給食にアメリカからの小麦粉で作ったパンが登場し、そこから日本の食生活は大きく変わっていくことになりました。今では自給率たったの13%の小麦が食生活の中で幅を利かせ、米よりも小麦の消費が増え続け、食生活は大きく変貌してきています。

米は食料自給率の視点から考えてもすべての日本の国民の胃袋を満たすことが出来る唯一の食材です。いつまでも輸入が思うままにいく社会とは思えない世界情勢の中で、小麦製品に偏っていく食生活をこのまま見過ごすわけにはいかないのではないのでしょうか。

輸入の小麦には、発がん性もあると言われている除草剤グリホサートで汚染されているものも多くあります。輸出国では問題視されているグリホサート汚染の小麦を輸入し続けている日本の現状を、食文化を見直す立場からも何とかしなければと思う日々です。

次の世代に何を引き継ぐのか

日本の環境に適した米を中心に、日本の自然環境を生かした食材(魚、豆、野菜、海藻)で旬と鮮度を大事にした副食を作り、発酵食品を大いに取り入れる日本の食は健康にもよいと言われているのです。それを手放すことは日本の食料自給率を低め、食料の安全保障を脅かすことにもなります。

水田による米は何年も同じところで作り続けられる

良さがあり、豊かな水を貯えることが出来るダムの役もあり、水害からも守ると言われています。

米の消費が減る中で又肥料代が高騰する中、米の価格が生産価格より低い状態を引き起こし、日本の農業者は悲鳴を上げています。国連からも持続可能な家族農業が評価されているにもかかわらず、日本の農業従事者はこの30年の間に半分以下にまで急激に減っています。そして後継者のいない農家が増えています。

70歳代の農業従事者が「農村が農村でなくなる日は近い」と話してくれました。美しい水田風景が休耕田にならないように、日本の国で農業が命を守る産業として、若者が誇りを持って農業を継いでいくことのできるよう国の基幹産業として、農業を育てていくことを願わずにはいられません。

地球温暖化による異常気象で世界的な水不足と干ばつが広がっています。穀物を育てるにも肉牛を育てるにも膨大な水が必要です。他の国の話では、地下水に頼っている農業はあと何年もしないうちに枯渇するといわれるところも出てきています。世界的視点においても日本の水田での米作りは貴重なものです。

消費者が賢くならなければ

消費者は、スーパーの中のあるふれるばかりの食材を見ているだけでは生産の場で何が起きているのか実態を知ることはできません。

なぜ農業の後継者がいないのか、なぜ酪農家が

次々と廃業に追いやられているのか、私たちの命の源の食を支える生産現場が苦しんではいないか、消費者は無関心ではいけないのです。次世代の食を考えることは生産の場を考えることでもあるのです。

消費者が米を中心の食生活に切りかえること、その土地の食材を100%生かす食生活を立て直すことで、日本の食料自給率が上がり、農業漁業そして酪農が元気になってくれれば、孫の代も安心です。

今輝いている水田が、荒れ果てる前に私たちは何を選び食生活を営むのか、消費者が問われていると言ってよいでしょう。

久しぶりに長野への道进行、美しい水田を目にしているいろいろ考えさせられました。



私と「水」

ライフ工業株式会社
代表取締役 山口 康文



「水もの」という言葉には、「そのときの条件によって変わりやすく、予想しにくい物事」という意味があります。(出典:小学館大辞泉) そう言った意味で、「水」は私たちにとって最も大切な「水もの」と言えるでしょう。

岩手県一関市生まれの私の父は、宮沢賢治に憧れ小学校の教員となりました。最初の赴任先が、山・川・海の豊かな自然に恵まれた岩手県三陸町(現:大船渡市)吉浜小学校であり、私も吉浜で生まれました。母方には漁業を生業とする親戚も多く、幼い頃より「水」は身近にありました。父の異動を機に、小学校3年からは県内の住田町の小学校に転校し、私の強い希望で、中学校は生徒数の多い大船渡中学校に入学しました。県立大船渡高校に進学し、多くの友と出会いました。その後、東京の機械系専門学校に進み、さらに経理専門学校を楽しく終え、先生や先輩方から様々なご指導を得、また多くの友・知人ができました。特に、大先人田中清玄氏からは、「先を読み、時

代に合った起業をすること」が大事で有ると教えを受けました。24歳で帰郷し、28歳で起業しました。昭和54年、「環境・水・公害」の分野がこれからは地方でも必要になる、と考えてこのことでした。

第一に、自らが住む岩手県気仙地区を把握する事が肝心と考え、地区の土地使用用途、事業所や企業の形態を調べ、そこから更にセメント工場、木材工場、漁業・水産加工場、食品工場、一般住宅、店舗等など、地区から排出される下水排水の現状を確認し、河川の汚染状況、海への排水ルートを調査しました。そして「水」が周辺環境に強い影響を受けることを理解しました。当時の岩手県では、し尿処理施設の設置はまだ遅れており、単独処理浄化槽、合併処理浄化槽の普及が急がれていた。海に近い釜石市(浜川才次郎市長の頃)からアタック、沿岸の宮古市(中居英太郎市長、菊池良三市長の頃)の建設担当課にも営業をし、地域の人々の理解・協力もあり、



住田町 河川



三陸町 海

情報を得るなど応援頂きました。昭和60年合併処理浄化槽設置に補助金が付くようになると、浄化槽メーカーからこの地域を任せるから、と連絡を受け、多くの人々の協力を得て、県内の沿岸地区・内陸・県北まで昼夜問わず営業に励んだものです。

その結果、住宅、地域の公民館、保育園、小・中学校、病院、福祉施設、ホテルや温泉など宿泊施設、店舗、工場、博物館、農場、畜産場、水産加工場、酒造工場、ゴミ処理施設、ペットボトルリサイクル工場、

プール、ガソリンスタンド、ショッピングセンター、キャンプ場、海水浴場、公衆トイレ、道の駅など多岐に渡り、約5,000件の「水」を守る施設・設置の実績を残すことができました。近年は、家畜・水産・魚市場の水設備や水製造設備に注力、設置工事だけでなくその後の保守にも努めています。

「商売は水もの」とも言われますが、岩手県内の多くの方々にお世話になり、実績を残せましたことを感謝しております。



緑豊かな田園風景(陸前高田市小友町)



豊かな三陸の海(大船渡市三陸町)

改めて知る水の大切さ



2023ミス日本「水の天使」 竹田聖彩

幼少期を過ごしたタイで経験した洪水、そしていま学んでいる医療とも深く関わる水。私の人生を振り返ると、良くも悪くも水は深く私の生活に関わり、学びを与えてくれています。水は生活の基盤であり支えでもあります。ライフラインである水は、まさしく必要不可欠で多くの人々の関心ごとであると思います。

光栄にも水の天使に選んでいただき、たくさんの水事業について知りました。例えば、下水道の管路管理の必要性、上水道の水道料金の問題やダムの重要性や種類に至るまで、今まで気づけなかった面にまで、気づくことができました。

私は将来医師を志しています。将来、数多くの方の健康を守るために行動したいと強く思います。そして、それと同じような信念を、水業界の方々も常に称えていると思います。上水道は動脈のように街に水を行き渡らせ、その生命をより若々しく保ちます。下水道は静脈のように溜まった汚れを排出し、新たに綺麗な水を作る循環を生み出します。周囲の自然環境を含めた街全体に、上下水道は張り巡らされています。そうして街を美しく、健康に保っているのだと思います。そして水のインフラを管理する水業界の方々は、その循環を健康に保つ、町のお医者さんなのだと思えます。

全員が責任と誇りを持って仕事に取り組んでおられることを肌で感じて、ますます日本の上下水道を使えることに、自然と感謝の念が湧いてきます。

水の天使として水関係の皆様と関わり、お話し

させていただく上で感じたことは、管路管理などの工法一つとっても、常に更新され続け、滞留することがないということです。改良に改良を重ねて、新しい技術をうみだし形にすることは、並大抵の努力では叶わないものだと思います。それを全ての水に携わる方々が何十年も行い続けて、私たちの生活が守られているのだと実感しました。これは水の天使にならなければ知ることができなかったであろうことだと思います。

この経験は、確実に私の中の意識を変えて、一見関係ないかと思っていた医師になるという夢、そして理想とする医師の姿を私の中で形作る上でもう既になくてはならないものになっています。

このご縁をいただけたことが必然であったように思えます。そんな経験をくださった、水業界の全ての方々へ、私たちの暮らしを守ってくださっていることや、私に新たな気づきを与えてくださったこと、何重にも重ねてお礼申し上げます。



「水」の恵みが 日本にもたらしたものの

私が小学4年生の時、東京都水道局による水道キャラバンが私の小学校にて実施されました。「水がどのように作られ、どのように届けられているか」について、五感を用いて学ぶことができた大変貴重な機会でした。雨水が水道水源林を通り、ダムに流れ込んでいく。そして、計算された量の水がダムから浄水場へ流れていき、高度浄水処理を経て、私たちのもとに届けられる。蛇口を捻るだけで美味しい綺麗な水を飲むことができることは決して当たり前のことではないことに気づき、各過程に多くの方々の存在と努力があることを知りました。

校庭での水遊び、プールの授業、陸上部で使用したウォータークーラー、ラクロス部で使用したアイシング、そして日常的に使用する生活用水、この22年間、私が水の恩恵を受けなかった日はありません。水は私たちの生活を豊かにするために必要不可欠なものであり、私たちにとっての命綱でもあります。

そして、ミス日本「海の日」を拝命し、水に関わるもう一つの私たちの生活に欠かすことのできない「海運」の存在を知りました。日本は、四面を海に囲まれた海洋国です。昔から外国諸国からの文化の伝来や人の往来、物資の輸送など、私たちの日常生活には欠かせない分野は、全て海を通して発展してきました。海洋国日本に住む私たちが、当たり前にも多様なモノを享受する生活を送ることができるのは、海上輸送に従事する方々の存在があるからです。実際に、輸出入の99.5%、国内輸送の40%を海上輸送が担ってい



2023ミス日本「海の日」 稲川夏希

ます。海上輸送のメリットは「地球にやさしい」ということです。近年、世界的な規模で省エネが大きな課題となっており、貨物輸送の分野でもエネルギー効率のよい輸送が求められています。

また、海運の重要性を感じた経験がございます。先日、琵琶湖の竹生島神社にて航海安全をお祈りしてまいりました。その際に乗船したフェリーにて、船員さんが、安土桃山時代の琵琶湖の役割を教えてくださいました。琵琶湖は当時、物資輸送の大動脈であり、その水運を握り天下布武を成し遂げようとしたのが、織田信長であるとお聞きました。水運の重要性、そして「水」が私たちの生活を豊かにしてきたことを物語る歴史であると感じました。

これからも海の恵み、そして水の恵みに感謝し、海を想い働く方々の存在とその努力を精一杯発信してまいります。そして、この「恵み」を次世代へ繋げられるよう、日々私にできることを積み重ねていきたいと思っております。



令和4年度第1回理事会

令和4年度第1回理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、定款32条2項に従い、書面による理事の同意の上、理事会を開催したものとみなし、以下の第1号議案から第6号議案まで第50回通常総会に諮ることが了承されました。

- 第1号議案 令和4年度業務報告及び収支決算報告承認の件
- 第2号議案 令和5年度業務計画及び収支予算案決定の件
- 第3号議案 役員改選の件
- 第4号議案 令和5年度会費の賦課及び徴収方法決定の件
- 第5号議案 令和5年度役員報酬決定の件
- 第6号議案 令和5年度借入金限度額決定の件

第50回通常総会

第50回通常総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会員へ事前に総会資料を送付し、書面にて同意を頂きました。その上で、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」第58条第1項及び第59条に基づき、当該提案を可決する旨の社員総会の決議及び報告事項の社員総会への報告があったものと致しました。概要は次のとおりです。

- 1号議案 令和4年度業務報告及び収支決算報告承認の件
 - 令和4年度決算は公益法人会計基準に基づいて作成され、事業活動収入1,128千円、事業活動支出503千円で投資活動収支、財務活動収支を合わせた当期収支差額は625千円となった。
 - 令和4年度の決算各項目について、令和5年4月27日吉崎清監事が監査を行った結果について「適正且つ正確なものである」との監事監査報告がなされた。
- 2号議案 令和5年度業務計画及び収支予算案決定の件
 - 令和5年度の業務計画は、機関誌の発行、他団体との交流、ホームページでの情報発信促進などを通じ、新会員の獲得、収入の確保を目指す。

- 3号議案 役員改選の件
 - 定款第21条、第24条に基づき、任期満了に伴う役員の改選について別表名簿の通り提案し、承認された。
- 4号議案 令和5年度会費の賦課及び徴収方法決定の件
 - 定款第7条の規定に基づき会費の額及び納入期日を以下のとおりとした。

正会員	1口以上	1口	10,000円
特別賛助会員	1口以上	1口	50,000円
(本会の目的に賛同する団体、会社)			
賛助会員	1口以上	1口	10,000円
(上記以外の団体)			
個人賛助会員	1口以上	1口	5,000円
(個人)			

納入期日を令和5年8月15日とする。
- 5号議案 令和5年度役員報酬決定の件
 - 令和5年度の常勤役員報酬は、無報酬とした。
- 6号議案 令和5年度借入金限度額決定の件
 - 令和5年度の借入金限度額は、1,000万円以内とした。

一般社団法人 日本の水を守る会 役員一覧

役名	氏名	所属
理事	米長 晴信	元参議院議員
//	齊藤 徳好	葛飾の川をきれいにする会 会長
//	佐藤 英夫	鳥取県内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長
//	遠藤 進	公益社団法人 日本水産資源保護協会 専務理事
//	宮内 康子	滋株式会社沿岸生態系リサーチセンター 代表取締役
//	原 猛也	姫路エコテック株式会社 顧問
//	正木 直子	一般社団法人 地域振興協会
//	佐藤 千恵	株式会社 光泉 代表
監事	吉崎 清	一般社団法人 日本定置漁業協会 監事

一般社団法人 日本の水を守る会 会員名簿

(順不同)

名称			
(社)十勝釧路管内さけます増殖事業協会	氷川漁業協同組合	廣瀬漁業協同組合	環境デザイン株式会社
阿寒湖漁業協同組合	神奈川県内水面漁業協同組合連合会	内川をきれいにする会	株式会社井木組
(社)北見管内さけ・ます増殖事業協会	相模川漁業協同組合連合会	熊野川漁業協同組合	株式会社シモト
西網走漁業協同組合	酒匂川漁業協同組合	紀ノ川漁業協同組合	イワタ建設株式会社
浅瀬石川漁業協同組合	山梨県漁業協同組合連合会	兵庫県内水面漁業協同組合連合会	美保テクノス株式会社
青森県内水面漁業協同組合連合会	河口湖漁業協同組合	武庫川漁業協同組合	株式会社ティー・エム・エス
小国川漁業協同組合	桂川漁業協同組合	東郷湖漁業協同組合	ライフテクノ株式会社
両羽漁業協同組合	安曇漁業協同組合	鳥取県内水面漁業協同組合連合会	ジャパンマリノビックス株式会社
日向荒瀬漁業協同組合	魚沼漁業協同組合	日野川水系漁業協同組合	有限会社西山工業
北上川漁業協同組合	能生内水面漁業協同組合	神戸川漁業協同組合	株式会社共栄組
大湊沼漁業協同組合	信濃川漁業協同組合	江川漁業協同組合	一般社団法人 地域振興協会
大北川漁業協同組合	荒川漁業協同組合	神西湖漁業協同組合	今井明子
群馬県内水面漁業協同組合連合会	敦賀河川漁業協同組合	吉井川漁業協同組合	複合型子育て拠点施設新築工事(建築) 松本組・津田建築特定建設工事共同企業体
那珂川南部漁業協同組合	耳河川漁業協同組合	福山市芦田川漁業協同組合	
栃木県鬼怒川漁業協同組合	石川県内水面漁業協同組合連合会	神之瀬川漁業協同組合	
渡良瀬漁業協同組合	黒部川内水面漁業協同組合	江の川漁業協同組合	株式会社リス二
栃木県漁業協同組合連合会	安倍薬科川漁業協同組合	三段峡漁業協同組合	株式会社アルパ
一般社団法人 市原市観光協会	大井川非出資漁業協同組合	木野川漁業協同組合	原猛也
全国漁場環境保全対策協議会	阿多古川漁業協同組合	山口県内水面漁業協同組合連合会	榛沢三紀子
公益社団法人 日本水産資源保護協会	気田川漁業協同組合	加茂川漁業協同組合	納富直彦
公益社団法人 日本観光振興協会	菊川改修期成同盟会	岩岳川漁業協同組合	倉片備
全国連合小学校長会	寒狭川上流漁業協同組合	矢部川漁業協同組合	田中克孝
一般社団法人 全国さけ・ます増殖振興会	津保川漁業協同組合	白川漁業協同組合	海洋総合開発(株)
港区釣魚連合会	高原川漁業協同組合	椎葉村漁業協同組合	(株)フソウ
葛飾の川をきれいにする会	丹生川漁業協同組合	鹿児島県内水面漁業協同組合連合会	大水友の会
東京東部漁業協同組合	飛騨川漁業協同組合	株式会社沿岸生態系リサーチセンター	三重大学同窓会・勢水会関東支部
恩方漁業協同組合	滋賀県漁業協同組合連合会	能代川サケ・マス増殖組合	

清流青湖

152号

令和5年8月18日発行

発行 者：一般社団法人 日本の水を守る会
〒104-0045 東京都中央区築地4-12-6

印 刷：株式会社 博秀工芸

機関誌名：揮毫 初代会長 稲葉 修

カラーと赤外線の2カメラで
24時間監視に最適

ツーカー24

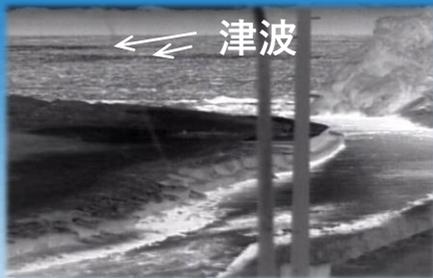


ソーラーファーム



氾濫河川

建設、エネルギー、治水、港湾、工場、畜産、農業、
自然環境、災害対策、、、あらゆる分野で使用可能



津波



水門



火山

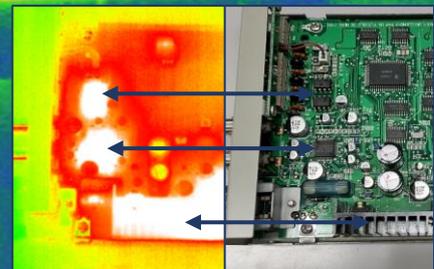
暗闇でも視線の先が見える！
ヘルメットIR (開発中)



※ヘルメットは別途
ご用意ください



人や動物の確認



基板の発熱確認

KSK 海洋総合開発株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋1-14-4 京橋T Sビル9階
TEL : 03-3538-2331 FAX : 03-3535-5510

URL <http://www.kaiyosogo.co.jp/>
e-mail ksk-ss@kaiyosogo.co.jp

